



ひと、暮らし、みらいのために

厚生労働省
秋田労働局

Press Release

報道関係者 各位

平成29年10月20日

【照会先】

秋田労働局 労働基準部 監督課

監督課長 町田 良 則

監督係長 袴 田 周

電話 018-862-6682

11月に「過重労働解消キャンペーン」を実施します ～ 使用者団体に対して「働き方改革」に向けた取組を要請します ～

秋田労働局（局長 松本安彦）では、厚生労働省が定める11月の「過労死等防止啓発月間」の一環として、「過重労働解消キャンペーン」等を実施します。

過重労働解消キャンペーンでは、過労死等の防止の重要性について国民に関心と理解を深めていただくために月間やキャンペーンの周知を行うほか、著しい過重労働や悪質な賃金不払残業などの撲滅に向けた監督指導や全国一斉の無料電話相談を行うことなどで過重労働の解消を目指しています。また、過労死等防止対策推進シンポジウムを開催します。

このキャンペーンに先立ち、下記のとおり労働局長が経済団体を訪問し、「長時間労働削減をはじめとする『働き方改革』に向けた取組に関する要請」を行います。また、昨年に引き続き、労働局長が、ベストプラクティス企業へ職場訪問を行い、職場での過重労働防止の取組状況を確認することとしています。（ベストプラクティス企業訪問は、日程が決定次第、公表する予定です。）

記

● 使用者団体への要請

日 時 平成29年10月27日（金） 9時30分～

場 所 秋田県商工会議所連合会（会長 三浦廣巳）

（秋田市旭北錦町1番47号 秋田県商工会館1階）

※ 取材される場合は、事前に秋田労働局監督課（018-862-6682：担当 佐々木又は袴田）までご連絡をお願いします。

このほか、経済団体（一般社団法人秋田経営者協会、秋田県中小企業団体中央会、秋田県商工会連合会等）、労働組合（日本労働組合総連合会秋田県連合会、秋田県労働組合総連合）をはじめ、業界団体に対して要請を行うこととしています。

《過重労働解消キャンペーン特設ページ》

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/roudoukijun/campaign.html>

平成 29 年度過重労働解消キャンペーン等の概要

1 実施期間

平成 29 年 11 月 1 日（水）から 11 月 30 日（木）までの 1 か月間

2 具体的な取組

（1）労使の主体的な取組を促します

キャンペーンの実施に先立ち、秋田労働局長等が使用者団体や労働組合に対し、長時間労働削減に向けた取組に関する周知・啓発などの実施について、協力要請を行い、労使の主体的な取組を促します。

日時：平成29年10月27日（金） 9:30～

場所：秋田県商工会議所連合会

（2）秋田労働局長によるベストプラクティス企業への職場訪問を実施します

秋田労働局長が県内で長時間労働削減に向けた積極的な取組を行っている「ベストプラクティス企業」を訪問し、取組事例を報道等により地域に紹介します。

※この労働局長の職場訪問を実施するに当たって、別途事前に記者発表を行います。

また、訪問実施後も訪問の様子や当該企業の取組事例等について記者発表を行います。

（3）過重労働が行われている事業場などへの重点監督を実施します

ア 監督の対象とする事業場等

i 労働基準監督署及びハローワークに寄せられた相談・情報等から、恒常的な長時間労働や賃金不払い残業等を把握し、重点監督を実施します。

※必要に応じ夜間の立ち入りを実施します。

ii 長時間にわたる過重な労働による過労死等に係る労災請求が行われた事業場等に対して、重点監督を実施します。

イ 重大・悪質な違反が確認された場合は、送検し、公表します。

（4）電話相談を実施します

フリーダイヤルによる全国一斉の「過重労働解消相談ダイヤル」を実施し、過重労働をはじめとした労働条件全般にわたり、都道府県労働局の担当官が相談に応じます。

無料

過重労働等に関する相談はこちら

過重労働解消相談ダイヤル

▶ $\left(\begin{array}{l} \text{フリーダイヤル} \quad \text{なくしましょう} \quad \text{長い残業} \\ \underline{0120-794-713} \\ \underline{\text{平成29年10月28日（土）9:00～17:00}} \end{array} \right)$

※「過重労働解消相談ダイヤル」以外にも、相談や情報提供を受け付けます。

ア 最寄りの都道府県労働局または労働基準監督署（開庁時間 平日 8:30～17:15）

イ 労働条件相談ほっとライン【委託事業】

平日夜間・土日に、誰でも労働条件に関して、無料で相談を受け付けています。

フリーダイヤル はい！ 労働
0120-811-610

月～金 (17:00～22:00)、土・日 (10:00～17:00)

(12月29日～1月3日は除く)

URL:<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11200000-Roudoukijunkyouku/0000088148.pdf>

ウ 労働基準関係情報メール窓口

労働基準法等の問題がある事業場に関する情報を受け付けています。

URL:http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/mail_madoguchi.html

労働基準 メール窓口

検索

(5) 周知・啓発を実施します

使用者等へのリーフレットの配布、広報誌、ホームページの活用により、キャンペーンの趣旨などについて広く国民に周知を図ります。

(6) その他

「過労死等防止対策推進シンポジウム」を開催します

過労死等の防止のための活動を行う民間団体と連携して「過労死等防止対策推進シンポジウム」【委託事業】を開催します。

過 労 死 等 防 止 対 策
推 進 シ ン ポ ジ ウ ム

参加
無料

開催日時

平成29年12月9日(土) 14:00～16:00

会場

秋田テルサ 5階 第一会議室

URL:<https://www.p-unique.co.jp/karoushiboushisympo/>

TEL:0120-976-344 (月～金 9:00～17:30)

(参考)

「過労死等」とは…業務における過重な負荷による脳血管疾患もしくは心臓疾患を原因とする死亡、もしくは業務における強い心理的負荷による精神障害を原因とする自殺による死亡またはこれらの脳血管疾患、心臓疾患、精神障害をいいます。

毎年11月は

「過労死等防止啓発月間」です。

過労死等防止対策推進法では、国民の間に広く過労死等を防止することの重要性について自覚を促し、これに対する関心と理解を深めるため、毎年11月を「**過労死等防止啓発月間**」と定めています。

国民一人ひとりが自身にも関わることとして過労死とその防止に対する理解を深めて「**過労死ゼロ**」の社会を実現しましょう。

※「過労死等」とは、①業務における過重な負荷による脳・心臓疾患を原因とする死亡、②業務における強い心理的負荷による精神障害を原因とする死亡、③これらの疾患のことです。



過重労働解消キャンペーンのほか、
「**過労死等防止対策推進シンポジウム**」を開催します。

「過労死の問題を一緒に考えてみませんか？」

過労死をゼロにし、健康で充実して働き続けることのできる社会の実現に向け、過労死とその防止について考えるシンポジウムを、過労死等防止啓発月間を中心とした期間に全国47都道府県において計48回開催します。

また、過労死等防止啓発のためのパンフレットの配布や新聞、インターネットなど各種媒体を活用した周知・啓発を行います。

■過労死等防止対策推進シンポジウム

参加費は無料で、どなたでもご参加いただけます。

開催会場によって開催日時やプログラムは異なりますので、詳細は専用ホームページでご確認ください。

■専用ホームページ(お申し込みはこちらから)

<https://www.p-unique.co.jp/karoushiboushisympo/>



■専用フリーダイヤル

0120-976-344 (月～金 9:00～17:30)



11月は

トップが決意を持って、
長時間労働の削減に向けた取組を推進しましょう。

「過重労働解消キャンペーン」期間です。

あなたの職場、 働き過ぎていませんか？



あなたは一日の中でどのくらい仕事をしていますか？
効率の良い仕事をする環境がありますか？
健康なからだ、適切な労働時間、健全な労働環境。
この機会に一度、見直してみませんか？

無料

過重労働等に関する相談はこちら
「**過重労働解消相談ダイヤル**」

なくしましょう 長い残業
0120-794-713
10月28日(土) 9:00～17:00

専用WEBサイト

過重労働解消キャンペーン 検索



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

STOP 11月は「過重労働解消キャンペーン」期間です。

過重労働

平成26年11月に施行された「過労死等防止対策推進法」において、11月は「過労死等防止啓発月間」とされています。このため、厚生労働省では、同月間において、過労死等の一つの要因である長時間労働の削減等、過重労働解消に向けた集中的な周知・啓発等の取組を行う「過重労働解消キャンペーン」を実施します。

知っていますか？

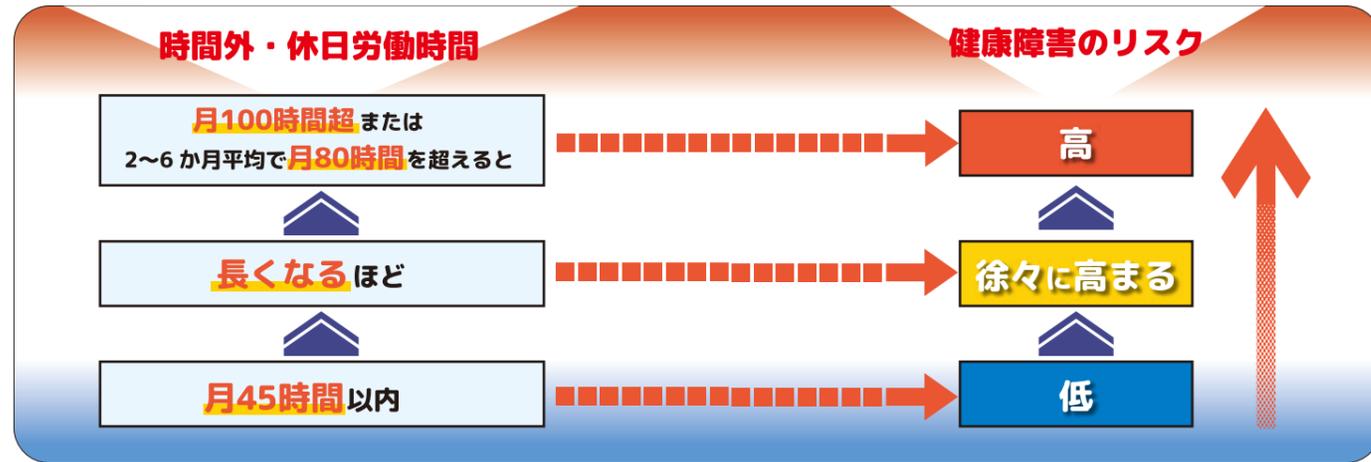


労働時間等の現状

労働時間の現状をみると、週の労働時間が60時間以上の労働者の割合は近年低下傾向であるものの、いまだ長時間労働の実態がみられます。また、脳・心臓疾患に係る労災支給決定件数についても依然として高い水準で推移するなど、過重労働による健康障害も多い状況にあるほか、割増賃金の不払に係る労働基準法違反も後を絶たないところです。

過重労働と健康障害の関連性

長時間にわたる過重な労働は疲労の蓄積をもたらす最も重要な要因です。具体的には、時間外・休日労働が月45時間を超えて長くなるほど、業務と脳・心臓疾患の発症との関連性が強まります。



(上の図は、労災補償に係る脳・心臓疾患の労災認定基準の考え方の基礎となった医学的検討結果を踏まえたものです。)

厚生労働省では、過重労働解消キャンペーン期間中に、次の取組を行います。

- 1 労使の主体的な取組を促します。**
使用者団体や労働組合に対し、長時間労働削減に向けた取組に関する周知・啓発などの実施についての協力要請を行います。
- 2 労働局長によるベストプラクティス企業への職場訪問を実施します。**
都道府県労働局長が管内の企業を訪問し、当該企業の長時間労働削減に向けた積極的な取組事例を収集・紹介します。
- 3 重点監督を実施します。**
長時間の過重な労働による過労死などに関して労災請求が行われた事業場や若者の「使い捨て」が疑われる企業などへ監督指導を行います。
- 4 電話相談を実施します。**
「過重労働解消相談ダイヤル」(無料)を全国一斉に実施し、過重労働をはじめとした労働条件全般にわたり、都道府県労働局の担当官が相談に対応します。
実施日時：平成29年10月28日(土) 9:00～17:00 **0120-794-713**

過重労働による健康障害等を防止するためにも、労働時間を適正に把握※1し、次の措置を講じましょう。

過重労働による健康障害の防止のために※2

- ① 時間外・休日労働時間を削減しましょう。**
 - 36協定(時間外労働・休日労働に関する協定)で定める延長時間は、限度基準※3に適合したものとする必要があります。
 - 特別条項付き協定※4により月45時間を超える時間外労働が可能な場合にも、実際の時間外労働は月45時間以下とするよう努めましょう。
 - 休日労働についても削減に努めましょう。
- ② 年次有給休暇の取得を促進しましょう。**
 - 年次有給休暇を取得しやすい職場環境づくり、計画的付与制度の活用などにより、年次有給休暇の取得促進を図りましょう。
- ③ 労働者の健康管理に係る措置を徹底しましょう。**
 - 健康管理体制を整備するとともに、健康診断を実施しましょう。
 - 長時間にわたる時間外・休日労働を行った労働者に対する面接指導等を実施しましょう。

賃金不払残業の解消のために※5

- ① 職場風土を改革しましょう。
- ② 適正に労働時間の管理を行うためのシステムを整備しましょう。
- ③ 労働時間を適正に把握するための責任体制を明確化しチェック体制を整備しましょう。

※1 「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」(平成29年1月、厚生労働省)
 ※2 「過重労働による健康障害を防止するため事業者が講ずべき措置」(平成18年3月、厚生労働省)
 ※3 「労働基準法第36条第1項の協定で定める労働時間の延長の限度等に関する基準」(平成10年労働省告示第154号)
 ※4 「臨時的に限度時間を超えて時間外労働を行わなければならない特別の事情が予想される場合に、特別条項付き協定を結ば、1年の半分を超えない範囲で、限度時間を超える時間を延長時間とすることができます。」
 ※5 「賃金不払残業の解消を図るために講ずべき措置等に関する指針」(平成15年5月、厚生労働省)

これらについて、あなたの職場で守られているか疑問のある方は

平成29年10月28日(土) **0120-794-713** にご相談ください。

以下の窓口でも労働相談や情報提供を受け付けています。

都道府県労働局または労働基準監督署(開庁時間 平日8:30～17:15)
 労働条件相談ほっとライン **0120-811-610** (月～金 17:00～22:00、土・日 10:00～17:00)
 労働基準関係情報メール窓口(情報提供) **労働基準 メール窓口**

5 企業における自主的な過重労働防止対策を推進します。

企業の労務担当責任者などを対象に、9月から11月にかけて、全都道府県で合計66回、「過重労働解消のためのセミナー」(委託事業)を実施します。

【専用ホームページ】 <http://partner.lec-jp.com/ti/overwork/>



過労死をゼロにし、
健康で充実して
働き続けることの
できる社会へ

STOP!
過労死

毎年11月は
「過労死等防止啓発月間」です。

労働者の皆さん

心身の不調に気づいたら、
周囲の人や専門家に相談を。

事業者の皆さん

労働者の方々が相談しやすい
環境づくりが必要です。



厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp>

過労死等とその防止への理解を深めましょう。



「過労死等」とは、業務における過重な負荷による脳・心臓疾患や業務における強い心理的負荷による精神障害を原因とする死亡やこれらの疾患のことです。国民一人ひとりが自身にも関わることであり、過労死とその防止に対する理解を深めて「過労死ゼロ」の社会を実現しましょう。

事業主の取組

Q 過労死等を防止するために、事業主が取り組むべきことは？

A 労働基準や労働安全衛生に関する法令の遵守などです。

【過労死等防止のための取組】

- ◎ 長時間労働の削減
- ◎ 過重労働による健康障害の防止
- ◎ 働き方の見直し
- ◎ 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
- ◎ 職場のパワーハラスメントの予防・解決
- ◎ 相談体制の整備等

事業主の取組

Q 長時間労働の削減に向けて、事業主が取り組むべきことは？

A 時間外・休日労働協定の内容を労働者に周知し、

週労働時間が60時間以上の労働者をなくすよう努めましょう。

事業主の取組

Q 働き過ぎによる健康障害を防止するために必要なことは？

A 事業者は労働者の健康づくりに向け積極的に支援すること、労働者は自らの健康管理に努めることが必要です。

事業主の取組

Q 働き方はどのように見直せばよいですか？

A 事業者はワーク・ライフ・バランスのとれた働き方ができる職場環境づくりを推進しましょう。使用者と労働者が話し合っって計画的な年次有給休暇の取得などに取り組ましましょう。

事業主の取組

Q 心の健康を保つために取り組むべきことは？

A 事業者はメンタルヘルス対策を積極的に推進し、労働者はストレスチェックにより自身のストレスの状況に気づき、セルフケアに努めましょう。

労働者の取組

Q 職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けて取り組むべきことは？

A 事業者はトップによるメッセージの打ち出しや職場内のルールづくりに取り組み、労働者は悩みを共有するなどしましょう。

事業主の取組

Q 労働者が過労死等の危険を感じた場合に備えて取り組むべき対策は？

A 労働者は自身の不調に気がついたら、周囲の人や専門家に相談しましょう。事業者は労働者が相談に行きやすい環境づくりが必要です。上司・同僚等も労働者の不調の兆候に気づき、産業保健スタッフ等につなぐことができるようにしていくことが重要です。

事業主の取組

Q 職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けて取り組むべきことは？

A 事業者はトップによるメッセージの打ち出しや職場内のルールづくりに取り組み、労働者は悩みを共有するなどしましょう。

